

オーガニックビレッジ宣言後の伴走支援

オーガニックビレッジ宣言を行った岡崎市に対し、生産者の「みえるらべる」取得の支援等を行うとともに、学校給食での提供・生産者の出前授業を実現。農林業祭で市民にみどり戦略をPR。

- **施策分類** ・みどりの食料システム戦略
- **きっかけ・背景、課題の把握**
 - ・岡崎市は、令和6年3月にオーガニックビレッジを宣言したもの、①生産者の取組拡大、②市民の有機農業への関心を高めることが課題。市役所単独での推進は困難。
- **取組の内容**
 - ・6月、岡崎市が「環境負荷低減の取組『見える化』説明会」を開催。岡崎市の要請により拠点が本省に講師の出席・説明を依頼。
 - ・岡崎市が拠点に、関心のある生産者を紹介。拠点は、生産者に対し算定シートの入力方法を説明するなど「みえるらべる」の取得を支援。 →米、茶、たまねぎ、ばれいしょ、ぶどうで★★★を取得。
 - ・市内の学校給食で、「みえるらべる」を取得したばれいしょ（8月）と米（12月）を提供。その際、生産者が中山間地域の小学校で有機農業に関する出前授業を実施。
 - ・11月、岡崎市主催の農林業祭に、拠点・生産者等が参加。「みえるらべる」取得生産者が出展・販売するとともに、拠点は、みどり戦略等をPRする体験型ブースを出展（約400名が体験）
→アンケートでは見える化農産物の購入希望者が9割以上
- **効果・成果、今後の方向性**
 - ・オーガニックビレッジ宣言後の具体的な取組の実現を支援できた。取組を通じ、生産者・市役所・拠点の協力体制を確立できた。
 - ・消費者が目にし、手に取る機会を増やすため、「みえるらべる」に取り組む生産者、品目・数量及び販売先を拡大していきたい。



第51回岡崎市農林業祭
（愛知県拠点ブース）



見える化農産物及び加工品を
PR・販売する生産者及び市職員



生産者が行った出前授業の様子



見える化農産物及び加工品を
販売する生産者

体制図

